

会 長 : 合原 一夫 560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 電話06-6833-9227
 事務局 : 関 剛 532-0011 大阪市淀川区西中島1-2-24 電話06-6304-0255
 広 報 : 前田 茂夫 573-1171 枚方市三栗1-18-20 電話072-850-5781
 HP 担当 : 坪井 仁志 559-0033 大阪市住之江区南港中5-6-22-703 電話06-6613-2836

平成29年6月 (2017年) No.618

課題コンテスト (題は「語」の入った題名)

関 剛作品「源氏物語絵巻」に凱歌

毎年、宮中歌会始めで来年度「題」が発表されますが、今年行われた歌会始めで来年は「語」と決まりましたので、わがOMC会員も「語」という言葉の入った題名の作品をつくらうと、5月第2例会にコンテストを企画した次第です。取りつき難しい題材であることから、出品数が懸念されておりましたが、去る5月18日第3木曜の午後に行われたコンテストには何と、13本の作品が出品されました。準備しておいた景品のBD-Rの数が足りないうれしい悲鳴があがりました。

互選の結果は1位に関剛氏と野田邦雄氏の作品が同点となり、決選投票の結果は関氏の作品「源氏物語絵巻」が最優秀賞に輝きました。結果は下記の通りです。

■最優秀賞	関 剛	「源氏物語絵巻」	19票	5分40秒
■優秀賞	野田 邦雄	「語り来し逃避生還隊員今は亡く」	19票	8分05秒
		(関氏と同点で決選投票で次点に)		
■秀作賞	森口 吉正	「お酒になった名水物語」	11票	8分50秒
■秀作賞	宮崎紀代子	「被爆体験を語る」	11票	12分30秒
■以下努力賞	前田 茂夫	「父が語ってくれたこと」	9票	12分45秒
	紙本 勝	「遠州浜松旅物語」		16分00秒
	江村 一郎	「関の語り部」		8分20秒
	進藤 信男	「人とアシカの語り」		7分50秒
	合原 一夫	「ちょっと東京旅物語」		10分00秒
	有村 博	「雪山体験物語」		14分55秒
	高瀬 辰雄	「二条城春物語」		7分00秒
	森田 光春	「読 経」		6分30秒
	柴辻 英一	「物 語」		10分00秒

■6月例会のお知らせ

■第2例会：6月は第2例会はありません。

■通常例会：第4土曜24日(土) 18時より、JR難波OCATビル4階、市民学習センターで開催。

暑くなってきましたが会場は快適です。どうぞお越し下さい。楽しいひと時を過ごしましょう。

■有田撮影会レポート

撮影会当日の夜半から朝まで大雨でいったいどうなるやらと案じましたが、幸い5月13日(土)午前中に雨も上がり、午後からは曇りながらも無事に湯浅の町を散策し撮影を楽しみました。湯浅伝統的建造物保存地区は日本遺産に指定されたそうで落ち着いた街並みに心が和みました。日本の醤油醸造発生の地「角長」はさすがに風格のある屋並みで湯浅らしい雰囲気醸し出していました。

翌15日は朝から快晴でした。撮影行程は午前中に雲雀山へ登って、中将姫が少女時代に過ごした山の周辺に点在する遺跡を訪ねてきました。午後3時半頃からは本番の「中将姫二十五菩薩来迎式」の撮影をしました。小さなお寺ですが、一人で撮影をこなすのは無理なので、場所ごとに撮影担当を決めて当たることになりました。撮影はOMCということで、撮影データは後で持ち寄って関世話役がBDに纏めて焼いて配布し必要に応じて自作品に自由に織り込むことになり

ました。撮影データは共有となりましたが、制作・編集は個人がそれぞれ独自性を発揮してまとめることとなりますので、会員独自のカラーが発揮されて興味深い作品が制作され出品されることと思います。関世話役には会員各氏の映像の取り纏め及びBD作成にお骨折り頂き心から感謝いたします。

今回は岡本幹事のお骨折りでお寺と交渉され、お寺の全面的な協力が得られ、本堂、開山堂の中に上がり込んで心行くまで撮影が出来ました。幹事さん誠にお疲れ様でした。

今回の撮影会は得生寺の住職さん、雲雀山を案内してくれた総代さん等関係者の方々に大変お世話になりました。共同撮影となったOMC会員のみなさんにもお世話をお掛けしました。従って作品タイトルには感謝の意味を込めて、少なくとも次の通り書き込むべきであろうと考えます。

1. 作品にOMC会員のカットを使い得生寺だけで纏められる方は

協 力 雲雀山得生寺（有田市）
撮影協力 大阪ムービーサークル
制 作 ○ ○ ○ ○

を参考にしてください。若干の文字の変更はよろしいかと思えます。全て自分のカットだけで作る場合は撮影協力を入れる必要はありません（当然ですが…）。

2. 湯浅だけ、または湯浅と得生寺で纏められる方で、湯浅でのドローン映像を使われる方は、「ドローン撮影協力 関 剛」を入れて下さい。（空撮協力 関 剛 さん）等でも結構です。

文字表現は作者のご意思にお任せいたしますが、基本は前記1. のように撮影協力を入れることをお願いします。また、テロップなどにお使いでしたら参考までにお知らせします。

- ①雲雀山得生寺住職 伊藤光碩さん
- ②雲雀山案内人 得生寺総代 宮本正弘さん
- ③撮影協力 大阪ムービーサークル（お渡りの映像のみ）
- ④空撮協力 関 剛さん（湯浅のみ）
- ⑤協力 湯浅醤油資料館「角長」（湯浅の映像のみ）

これは幹事の統一見解です。 以上

一般的に自分の作品に会員のカットを使う場合は撮影協力の文字は入れるべきと考えます。それが撮影者への礼儀でありマナーであると思えます。

公開審査は7月第2例会（7月20日第3木曜日）午後1時から行います。

撮影会参加者全員の作品出品をお待ちしています。時間が余れば一般作品も上映します。

（文責 広報前田）

■ 予 告

9月例会は第4土曜日が祭日で夜は貸室はありませんので、第3土曜16日に会場を予約しました。9月は奇数月で第2例会が第3木曜21日にありますが、カレンダーの関係で順序が逆になります。ご予約下さい。

同様に12月も第4土曜23日が祭日になりますので、一週早めて第3土曜日です。

■ OMC フェスティバルは 10月1日（日曜）と決定

今年も恒例の映像発表会を開きますが、その日付が10月1日（日曜日）午後と決まりました。場所はいつもの通り大阪市立中央会館です。7月例会日までの作品の中よりプログラム編成します。会員の皆さん、これぞ我が自信作というものを一本決めて下さい。制作途上の方はピッチをあげて纏め上げて下さい。

■ 東京アマ全国コンに応募を

7月10日ㄨ切で募集している東京アマ全国コンの応募者が少なく、主催者がやきもきしています。丹波もそうですが、応募数が少ないと取りやめの運命になるのは目に見えています。灯りを消さない為にも落ちて元々、まずは何か作品応募してみませんか。10分以内の作品。テーマは自由、参加料は2千円。

5月通常例会レポート

気候も良く、会員諸氏の集まりももっと多いかと思っただが、結局23名どまり、しかし作品数は14本のほかに課題作最優秀作品「源氏物語絵図」関氏の作品上映で、時間一杯の充実した例会となった。今月の司会は森口氏、書記、紙本氏、上映、稲田氏、メモリ録画、江村氏、受付兼照明、宮崎、森下の両氏、掲示、紙本氏の各担当で進行した。

■**出席者**：稲田、岩井、江村、岡本、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、坪井、西村(光)、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、西條、弓取、中村の23氏。

■**上映作品**（今月の講評は紙本世話役）

1. 加古川の古墳巡り 紙本 勝 9分25秒 (BD)

兵庫県には、有名な五色塚古墳など16000基もあるそうですが、加古川にも大型古墳があるので訪ねてみました。日岡陵（ヒレ墓）には播磨稲日大郎姫が葬られており日岡神社の絵馬に描かれた、石碓で産湯を使う大碓命と小碓命（後の日本武尊）の母親とか、古代、加古川は吉備王国や大和と深い関係があった様です。

2. 竹生島 江村 一郎 8分10秒 (BD)

伊吹山の神が、姪の浅井姫と山の高さを競い、負けた伊吹山の神が怒って切り落した浅井姫の首が琵琶湖に浮かぶのが竹生島と言うテロップ。続いて能の「竹生島」は弁財天信仰の霊地である竹生島を舞台にして神仏の姿を描いた作品である。この作品は単に竹生島その物でなくて能の竹生島を表現する事で貫かれています。

島への往路の海上、到着後の弁財天を背景に能舞のカットが重なり流れます。やがて雪が舞い、篝火が燃え、弁財天が姿をみせさらに能舞は続きます。又、かわらけ投げなど、色々な島の表情も見られます。兎に角、竹生島を平凡に描くのではなくて、霊地としての姿を能舞を通じて描くと言う発想と描写力に感心しました。

3. 富来八朔祭り（改）河合 源七郎 12分20秒 (BD)

能登の住吉神社の女神の元へ富来神社の男神が行き逢瀬を楽しんで帰ると言う祭りです。1日目は凡そ40本のキリコで富来八幡に男神を迎えに行きます。村人達はこの祭りを心行くまで楽しむと言い、その熱意が伝わって来ます。そして男神を乗せた神輿が住吉神社に着くのが午前の2時過ぎ男女の神は1年ぶりにお会いになります。

2日目は朝から攝社の神輿が住吉神社に宮入り太鼓と共に乱舞、増穂の浜で宴が開かれます。そして約10台の神輿で帰りの男神を送つて行くわけです。宮入・宮出しは勿論男神送迎の途中の村人の熱気はほとぼしり、賑やかで豪快、祭りは最高潮の連続です。これらを河合さんは何時もの事ですが、昼間は勿論のこと、夜中であろうと徹夜もいとわず徹底的に取材されるのには、到底真似が出来ず頭が下がります。これでこそ感動の作品が生まれるのでしょう。

4. ゴールデンサークル 華岡 汪 11分00秒 (BD)

何時も国外の作品を見せて貰える作者の、今回は、アイスランドの南西部の一角を観光された様です。先ずストロックスの間欠泉、地上10~20mも噴き上げる様子は素晴らしいですネ。歓声上がるのも当然でしょう。次はグトルフオスの滝、幅70m落差45mを、見晴台などあちこちから撮影されてダイナミックさがよく伝わります。そしてシンクベトリル国立公園へ、ユーラシアプレートと北米プレートの分かれ目が大きく裂けて大きな口を開けているギャオと言う珍しい現象がよく判ります。最後はヘトリスヘイジ地熱発電所の説明です。三菱電機と東芝製の蒸気タービンが並んで設置されているようでしたが、日本でも地熱は多分にあるだろうに、何故と言う思いでしたと結んでおられました。

5. 八幡背割堤の桜 弓取 克弘 7分00秒 (BD)

関西では屈指の桜の名所に出かけられました。駅から続く大変な人の波、背割り堤は宇治川と木津川の合流点に造られた堤防で1.4kmにわたって道の両側に、250本のソメイヨシノの桜並木が続いているので4月には花見客で大に賑わうわけです。此処の桜は木が大きくて枝振りもよく見事な花を咲かせるのが特徴とかでそれを見逃さずに、ロングありアップあり、見る角度で美しさも違うのでそれにも挑戦、スマホで撮る人、腰掛けて桜を仰ぎ見る老夫婦、花を眺めながら道を行き交う人々、土手下は「花より団子」ではないが、三味線や太鼓までが持ち出されての宴風景、桜、桜、人、人の見事な作品に酔わして貰いました。

6. 無 題 坪井 仁志 2分30秒 (BD)

作者のお住まい近くのマンションでしょうか。暗がり消防車が走り、人々が集まり、これは大変です。高層の窓から煙が噴き出しています。消防隊員がベランダで消火作業に掛かりますが、そのうち真っ赤な火が勢いよく燃えて上がります。「火事と喧嘩は何とやら」それどころではありません、早く消してあげてください。消火作業は続けられ、近くの人々

は恐ろしさにただ呆然と眺めているばかりです。ただ「火事」では単純だし、焼失された方の心情を察しての「無題」でしょか。最後に、「出火原因・負傷者調査中に付き不明」とありました。それにしても、短編ながら滅多に撮れないスクープ映像でした。

7. 秋、清水寺 関 剛 5分30秒 (BD)

真っ青な空の下端に清水寺の建物の最上に並ぶ人たちの姿、舞台の組み柱等々、そして紅葉が映え、着物姿の何人かの女性がスマホに写したのを見比べる。恋愛成就健康長寿が叶うと言う音羽の滝の、柄杓の水しぶきが画面一杯に広がる。水を汲む女性のアップが引き立ちます。紅葉が流れるスマホでの自分撮りの女性、舞台は大勢の人々で賑わい、線香の煙を頂く老婆、寄進を受ける修行僧の托鉢に入る札、五重の塔の細部の朱が目にしみる。参道には人が溢れスローで表現。兎に角清水寺も撮り方次第でこうも変わるかと、平凡に終わらない関さん、江村さんの竹生島と併せて大変参考になる作品でした。

8. 篠山よさこい祭 進藤 信男 12分00秒 (BD)

丹波篠山に出かけて、3会場でのよさこい祭りを精力的に撮ってこられました。メイン会場では子供踊りから開演です。日本遺産に選定されたデンカンショ節は昔から有名ですが、若者にとっては動きの激しい「よさこい」の方が現代風で活力の見せ場として似合っているのでしょうか、今年は、北海道を始め47チームが参加とか。三の丸会場で5チームの競演、春日神社では2チーム、更に二の丸広場では6チームの何れも桜を背景に激しい踊りで、それぞれに個性があり、元気を貰える様であり、それをバッチリと撮影されています。おしまいは「デカンショ節」の総踊りで締められていますが楽しく拝見させて頂きました。

9. 自転車に乗って 前田 茂夫 5分35秒 (BD)

前作は「夕やけの道」というタイトルで可愛いお孫さんも3年生でしたが、今回はもう5年生になられた様です。淀川の堤防や河川敷のサイクリングロードをお孫さんが自転車で走られるのを、その自転車に3台のカメラを取り付け、自分のカメラで追っておられませんがこれは大変です。緑が多い道を颯爽と走る姿、特にペダルを漕ぐ、元気そうな足元のアップがとても印象的でした。又、単調にならないように淀川をのぞいたり。石段で休憩、遠くの景色なのか、学校生活のことなのか、お孫さんの表情も又が魅力的でした。本名陽子の唄が似合い、やがて夕日、自転車に乗ったシルエット姿、全編を通じて微笑ましい作品でした。

10. 三船祭 高瀬 辰雄 6分15秒 (BD)

京の三船祭は車折神社の例祭の延長行事で、昭和3年から始められたとかで祭神の清原兼頼公が活躍された平安時代の「船遊び」を再現しているそうです。神社の模様が続いて清少納言を中心にした時代行列が渡月橋を渡り大堰川に浮かぶ船に乗ります。清少納言が乗る御座船、今様歌舞の鷓首船、雅楽舞楽の龍頭船が行き交い、それぞれの船上では様々な伝統芸能が披露されます。又、御座船からは清少納言を扮する女性の「扇流し」の奉納等々、きらびやかで見応えのある祭りの模様を、高瀬さんは見事にとらえられています。新緑に萌える対岸の見物人も、華麗な祭りに見とれて居る様でしたが、私も存分に楽しませて頂きました。

11. バルセロナとガウディ 山本 正夢 9分30秒 (BD)

バルセロナは地中海沿岸に位置するスペイン第2の人口を持つ都市とか。オリンピックでその名だけは聞いた事がありますが、スペイン広場のマジカル噴水からですアントニオ・ガウディは有名な建築家で、多数の建築物は世界遺産に登録されているでそうす。山本さんはその代表作の数々を紹介されています。まずサグラダファミリアは130年前から建築が始まり未だに未完成とか。カタルニャ広場の鳩の群れ。彼のライバルがモンタネールでサン・パウ病院。続いてコロンプスの塔・バルセロナ港、グエル公園、カタルニャ音楽堂、カサバトリヨ、カサミラなど。サンジヨセップ市場の賑わい、そしてバルセロナ大聖堂で、何れの建築物も壮大で、曲線美があり芸術的で、建物内外を詳しく、美しく、よく判る様に撮影されているのに感心しました。

12. 平成の大修理でわかった狭山池の堤 宮崎 紀代子 7分50秒 (BD)

古事記に印色入日子命が造ったと記され天平3年に僧行基が改修したと言う狭山池はダム式のため池で、満々と水を湛え、80ヶ村に灌漑していたそうです。堤防は3km足らずのハイキングコースになっている様です。これまでに何回も改修が行なわれ平成の大改修工事に伴う調査で、東樋の木材は616年に伐採、木の枝葉を使用した中国伝来の「敷葉工法」が採用されていた事が判ったという。宮崎さんは「狭山池博物館に行き、展示されている実際の堤防の断面と工法のビデオでの説明、併せて学芸員の方の説明を入れて撮影されていて、土木遺産である狭山池の事がよく判ります。終わりは賑々しく狭山池祭り、立派な教材にもなる作品でした。

13. 五月のバラ 柴辻 英一 5分00秒 (BD)

柴辻さんお得意の歌謡映画といってもよいのでしょうか。岩出和也と言う歌手の唄に乗って、真っ赤なバラ、そして黄色のバラなどに、枠付きの女性のカットがゆっつくりゆっつくりと移動しながら重なります。そして、バラの色、形、さらに、女性の演出も次々と変化してゆき大いに楽しませてくれます。美しく、しとやかで、心に響く、五月の青空に似た爽やかさで、結構な作品でした。

14. もう大丈夫！輝く未来への旅立ち 中村 幸子 6分54秒 (BD)

九州の不登校生を預かり心身共に蘇えらせ未来への希望を与えると言ったフリースクールに入った関少年の生活を蜜着取材された作品ですが、最初の荒削りの部分を削ぎ落とし、半分近くのタイムに短縮された結果は立派なドキュメンタリー作品に生まれ変わった様に思われます。インタビューもよく撮れており、取材共々その努力に敬意を表します。1日8kmのマラソン、座禅、掃除など、校長先生を始め諸先生方の指導もあって、入所当初の容貌とは、全く違った、非常に明るい姿になり、堂々と修了証書を受け取り、安心されたであろうか玄海灘に向かい「目標を見つけて 頑張りたいです！」と叫ぶ。本当に、もう大丈夫というのが実感出来る様な作品になっていました。女性作家の繊細さは男性の及ばないところで今後も秀作を期待したいと思います。

参考作品 宮中の歌会はじめのお題「語」の課題コンテストの最優秀作品

源氏物語絵巻 関 剛 5分40秒

第2例会レポート

18日（第3木曜）午後開催、いつもの例会場にて。今月は課題コン「語」のコンテスト日なので出品数が心配だったが、13本の作品が出て、決選投票まで行われるという熱意あふれる第2例会となった。惜しくも2位となった野田作品、ぜひ通常例会に持参し、まだ見ていない会員にも見せて下さい。今月の司会は柴辻氏、書記、高瀬氏、メモリ記録、稲田氏、上映、河合氏、受付、宮崎氏、掲示、紙本氏の担当で進行。

■出席者：有村、稲田、植村、江村、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、前田、宮崎、森口、森下、森田、中村の17名。

■上映作品（今月の講評は高瀬世話役）

1. 被爆体験を語る 宮崎 紀代子 12分30秒

大阪狭山市で開かれた「被爆体験を語る」という催しに参加され、被爆体験者3人の話を収録。話の中に被爆の生々しい写真やイラストなどを挿入され、巧みに編集されている。最後にご自身の言葉で「被爆体験の話は決して忘れることはできません。悲惨な惨禍を再び繰り返してなりません」と結ばれていて、見る人に訴えるものがある好作品で、3位秀作賞に選ばれた。

2. 雪山体験物語 有村 博 15分

雪山体験の物語は長野県的美ヶ原高原の王ヶ頭に登られ、北アルプスの朝焼けを眺望するシーンから始まる。素晴らしい風景に見入っていましたが、王ヶ頭はそれだけで、昭和61年の奈良県の三峰山の思い出に移る。次の雪山は平成3年の奈良・三重県の高見山と同5年の滋賀・三重県の御在所岳。それぞれ違った雪山の楽しい思い出を綴られているが、高見山と御在所岳はビデオ仲間と食べて、飲んでというシーンがかなり目立ちます。

3. 父が語ってくれたこと 前田 茂夫 12分50秒

生まれ故郷の台湾の生家を訪ねられた作品を以前、見せていただいた。この作品はそれに、お父さんをテーマにされた8ミリフィルムの「父」という作品の映像を加え再構成されたものと思われませんが、生死を賭け台湾から日本に戻る時の様子を訥々と語られるお父さんの言葉が胸を打ち、深みのある素晴らしい作品に仕上げられている。

4. 二条城春物語 高瀬 辰雄 7分

今年、二条城は大政奉還から150年目を迎え、東大手門が修復されました。桜の花と新しくなった東大手門を中心にまとめた拙作ですが、春物語というには物語性に乏しく、タイトルにやや無理があったように思います。

5. お酒になった名水物語 森口 吉正 8分50秒

滝の水がお酒になったという、源丞内という木こりの親孝行の話を中心に、30メートルの高さから落ちる養老の滝や名

水百選の一つ、菊水霊泉などを素晴らしい映像で紹介。いつもの名調子のナレーションに思わず引き込まれる作品で、3位秀作賞の高い評価を得られた。

6. 関の語り部 江村 一郎 8分30秒

東海道47番目の関宿を3人の語り部が案内していきます。まず亀山市観光協会の会長が関の地蔵や愛染堂、町の様子を語り、続いて関宿の成り立ちと小萬という女性の親の仇討話を2人の観光ボランティアの女性が紙芝居を使って紹介。語り部の話に登場する風景を江村さんならではの映像表現で見せていただいた。

7. 物語 柴辻 英一 9分

歩道橋と思われる高所から道路を通過する自動車の映像をバックに8ミリフィルムのドラマをはめ込まれた作品。近代的な街の中で糸を紡ぐ女性に侍が現れ、襲い掛かる。女性は茫然とした様子で歩道橋にたどり着くが、先ほどの侍が待っており、女性は狂ったように舞い、倒れてしまう。トップに機械に追い回され翻弄される弱い人間の性を描いたというテロップが入るが、なかなか難解な作品で、作者の意図を正しく理解できたか心許ないです。

8. 語り来し逃避生還隊員今は亡く 野田 邦夫 8分

1935年、困窮農民対策として満州開拓移民が始まり、平和の理想郷を求め27万人が渡満、さらに近代農業を進めるため19年、現地で満蒙開拓青少年義勇隊が結成され93人が参加した。しかし終戦間近にソ連軍の侵攻を受け、命からがら日本に戻る。野田さんはこの青少年義勇隊に参加されており、実体験を映像とともに語られる。93人の同志も戦後72年を経た今、3人しか残っていないという。語り続けられなければならないという作者の思いが心に響く秀作で、2位優秀賞を得られたのも当然といえます。

9. 人とアシカの語らい 進藤 信男 8分10秒

「『語る』とは心に思っていることを言葉で順序立てて相手に伝えること」、ではアシカとはどうだろうとテロップで作品の意図を紹介。水族館でのアシカショーでの言葉の通じない人とアシカの気持ちの触れ合いを、互いに語るシーンは言葉をテロップで流すなどの工夫をされ、作者の意図がはっきり分かる作品でアイデアが非常に良かった。ラストはアシカの挨拶で終わってもよいように思います。

10. 源氏物語絵巻 関 剛 5分40秒

副題に「持説 藤壺の帖」とある。紫式部が源氏物語の構想を練ったといわれる石山寺の秋の映像に光源氏と藤壺の画像などを重ね、心象的に描かれた作品。藤壺は光源氏の継母であるとともに、子供の実の母親（少々話は複雑）で、永遠の恋人といわれる女性。この藤壺と光源氏を独特の表現方法で描かれている。詳しい話は知らなくても源氏と女性の妖しげな雰囲気は作品の中で十分表現されていて、風景描写、編集の巧みさは関さんならではのものです。今回の1位最優秀賞を獲得された。

11. ちょっと東京旅物語 合原 一夫 10分

東京の旅の物語は東京スカイツリーから始まる。東京はよく訪れるが、ゆっくり観光見物するのは10数年ぶりとか。スカイツリーから東京の街を一望した後、浅草へ、そして船で観光し、お台場の大江戸温泉で一休み。2日目は柴又帝釈天で寅さん記念館に行かれた。映像はカメラスケッチ風に撮られている。そして「東京は広い、この空の下でいるんな人がそれぞれの人生を送っているんだな」など、それぞれの場所での思いを語られているのが印象に残る作品です。

12. 遠州浜松旅物語 紙本 勝 16分10秒

2日間にわたって、今年の大河ドラマ「おんな城主 直虎」ゆかりの地、静岡県浜松市を訪ねられた。電車を乗り継ぎ、気賀町に行き、姫街道で繰り広げられた姫道中を撮影、2日目は同じ気賀の町を城跡や墓所などを探してレンタルサイクルで回られた。どこに何があるのか調べるだけでも大変だが、これを1日で回られて撮影されている。そして大河ドラマのテレビ映像を加えられ、分かりやすく編集されている。精力的な撮影と言い、そのご努力にはいつものことながら感服します。

13. 読経 森田 光春 7分15秒

タイでしょうか。読経が流れる中、黄衣をまとった子供の僧の食事やお参りする様子を丹念に描かれている。しかし説明がないので特別な行事なのか、日常のことなのか、分からないまま、僧たちはバスに乗って帰っていきます。タイトルに課題の「語」が入っていないので、コンテスト作品か一般作品か分かりませんが、投票対象となっていたので、ここに記載しました。

■一般作品講評（講評は高瀬世話役）

1. 春・うらら 有村 博 8分30秒

4月の長居公園を撮影に行かれたが、「いつもと違う風景が撮りたくてカメラを傾けて撮りました」というナレーションがあり、カメラを左右斜めにした構図の映像が続きます。写真の世界では斜めに撮るのは不安定さや動感を表現するのに使われ、水平に撮るより技術的には簡単。ただ、人をはっとさせるような仕上げはかなり難しいといわれます。では動画ならということで作品を見せてもらおうと、ある角度以上斜めになると不安定感が増すようです。ただ動感の表現はそもそも動画であるビデオと、静止画の写真での意味合いは違うので、評価は難しいように思われます。しかし作者の意図通り、いつもと違う感覚の作品であることは間違いありません。

2. もう大丈夫！輝く未来への旅立ち 中村 幸子 6分55秒

3月の第2例会で「もう大丈夫！関くんの新しい旅立ち」として映写された12分の作品を切り詰めて7分内に再編集された。九州の福岡玄界灘にある不登校生を預かるフリースクール玄海をテーマにしたドキュメンタリー作品で、前回にはなかった卒業式のシーンをこの3月、九州まで日帰りで撮影に行かれ、加えられた。その努力と成果は十分出ており、卒業式を入れられたことで話の流れ、映像においてもメイハリのある締まった作品に仕上がっていると思います。席上、細かな詰めやタイトル、ラストシーンなどに指摘もあり、さらに手を加えられるようで、完成が楽しみです。

■YouTubeへ作品をアップロードしてみませんか（再）

作品を例会以外で見えていただく方法の一つにYoutubeへアップロードしてOMCのホームページにリンクして載せる方法があります。その方法は下記からみられます。（前田・坪井記）

下記のリンクから入って下さい。

[28-09-youtube-upload.pdf](#) へのリンク